

浅場の環境と生態系の回復を目指して

伊木力漁場保全の会

伊木力地区について

伊木力地区は、長崎県諫早市の西端部に位置し、大村湾の湾奥に面す。

地区の特産は「伊木力みかん」。気候が年間を通して温暖で、大村湾から吹く潮風が寒暖の差を作り出すことから、江戸末期からみかん栽培が盛んに行われてきた。

漁業は、ナマコなどを対象とした底曳き網やカニかご、カキ養殖が営まれている。



大村湾の現状

地区が面す大村湾は、針尾瀬戸と早岐瀬戸の2本の細い水路で佐世保湾、そして外海につながる二重の閉鎖性海域である。加えて、海底地形が盆状であるため、外海との海水交換が他の湾に比べて低い特徴を持つ。

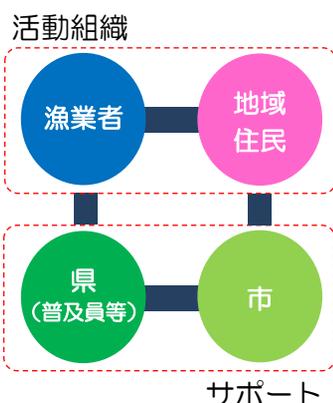
現在、陸域から流入する汚濁負荷量は、下水道整備等によって減少。しかし、海底に蓄積する有機物等は未だ豊富で底質が悪化しており、層の厚い貧酸素水が7月から9月にかけて湾中央部を中心に広い範囲で発生する。また、湾奥に位置する当地区においては、青潮等の被害が発生し、水産資源などに悪影響を及ぼしており、その対策が喫緊の課題となっている。



組織の設立及び活動方針

上記の課題の中、長崎県では、大村湾の環境保全及び流域の活性化等を主眼とした「大村湾環境保全・活性化行動計画」を平成15年度に策定し、海域の生態系本来の力を活用した自立的な環境修復能力を高めるための取り組みを積極的に進めることにした。

また、青潮等の被害で頭を抱える当地区においも、平成21年度に「伊木力漁場保全の会」を設立し、こうした取り組みを地先の藻場の維持・回復を図ることで推進することにした。



藻場の維持・回復に向けて

当地区の沿岸には、岩礫性のホンダワラ類で構成された藻場や、砂泥性のアマモで構成された藻場が広がる。しかし、近年、ウニによる食害や、アオサやホソジズモなどの小型海藻類の大量発生など、藻場の環境が不安定な状況にある。

(1) 岩礫性藻場の維持・回復

ホンダワラ類の保全を対象に、①ウニ除去、②ウニフェンスの設置、③母藻の投入を実施。ウニ除去は、エリアを順次決めて、みんなで並んで集中的に行う。ウニフェンスは、ホンダワラ類が点生するウニ除去エリアの一部で、試験的に行う。母藻の投入は、成熟したヤツマタモクを優良藻場から採取し、数本まとめてロープで縛り、船上から投入する。



(2) 砂泥性藻場の維持・再生

アマモ密生地から栄養株や花枝を採取し、アマモ移植や播種を行う。移植は、自作の竹串にアマモをはさみ、船上から差し込む。また、移植株の流失対策として、採取時のガタ（粘土質の泥）付きアマモをそのまま沈める方法も試験的に行っている。播種は、5～6月に花枝を採取し、漁港で熟成し、8月に種の選別を行う。そして、選別直後に、地元の赤土に種を混ぜ、泥団子をつくり船上から投入する。



活動の効果と課題

活動エリアのホンダワラ類やアマモの被度は、年々増加し、ここ数年は高い水準で安定するまでになった。また、アマモの播種活動は、将来を担う地元の子どものための教育・学習の場にもなっている。

ただし、大村湾における水産資源は未だ不安定。また、最近の異常気象によって災害が頻発化しており、こうした活動の継続がより一層求められる。

後継となる若手メンバーへの着実な引き継ぎも含め、体制の強化を図りながら、地域一体の恒久的な保全活動になるよう、今後も活動を展開していきたい。

